

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	○一人ひとりの障害の状態を的確に把握し、子どもの目線に立った個別的教育支援計画を作成し、保護者や関係諸機関と連携して、きめ細かな指導に努める。 ○子ども一人ひとりの実態に即した教育課程の編成(知的障害等)を図る。	きめ細かな学習指導については、保護者や関係機関と連携して一定の成果が得られた。児童生徒の多様な実態に合わせた教育課程の検討、より丁寧な実態把握による個別の指導計画の作成、指導目標と授業との関係性などについてはさらなる検討が必要である。	B
豊かな心	○「ともに学び、ともに生きる」を合い言葉に、周りの人に対する信頼の気持ちを育てる。 ○中村小学校をはじめ平楽中学校や副学籍校との交流及び共同学習の充実を図る。 ○オーケストラや絵画鑑賞などを通して感性を育て、心の安定を図る ○IUIの授業を通して、色々な国の文化や伝統に触れる。	中村小学校との交流及び共同学習は今年度も充実した内容であった。今後もさらに深めていき、取り組みを外部に発信していきたい。国際理解教室は様々な国の文化や伝統に触れる良い機会となった。	B
健やかな体	○家庭や地域・関係機関との連携の下、子どもが自らの「食べること」や「呼吸とからだ」に興味関心を持ち、健康や食生活に関わる力を引き出せるよう支援する。 ○食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解し食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。	日々の給食指導や給食集会を通して、食事や体、健康についての興味や関心を高めることができた。今後も家庭や関係機関と連携し、食事や健康に関する学習の充実を図っていきたい。	B
センター的機能の取組	○特別支援教育コーディネーターを中心に、就学に関わる見学や相談活動に取り組み、保護者の不安や今後のライフスタイルに向けてのアドバイスをする。また、地域の小中学校の特別な支援を必要とする子どもへの対応について、小中学校の特別支援教育コーディネーターや担任、関係機関との連携を深め、さまざまなケースに対応できるように努める。	特別支援教育コーディネーターを中心に、就学に関する相談や在校生保護者からの相談に対して丁寧に対応することができた。また、地域の小学校や中学校の個別支援学級、児童生徒指導専任とのかわり合いが広がってきているので、今後もさらに連携を深めていき、様々なケースに対応できるように努めたい。	B
安全管理	○様々な非常時を想定した避難訓練、不審者対応訓練への取組、そして教職員の防災・防犯研修やAED研修、緊急シミュレーションを積み重ねることで意識を高め、迅速な対応ができるようにする。 ○医療的ケアの取組、ヒヤリハットの蓄積・分析・共通理解を図り、その対策に講じる。	避難訓練や不審者対応訓練、防災や防犯に関する研修、児童生徒の健康状態の急変に対応するシミュレーションなどを積み重ねることで、災害時や緊急時に迅速な対応が取れるようにした。ヒヤリハットに関しては全体で共通理解を図り、再発防止に努めたい。	B
研究	○ICT活用の指導についての研究を充実する。 ○NMBPを継続しながら、認知面の指導の充実を図り、運動、知識の両面からの指導の研究を行う。 ○大学など関係機関との共同研究を積極的に進めていく。	ICTの活用については特別委員会のメンバーを中心に研究を進めることができた。NMBPは今後もさらなる充実を図っていき、運動と知識の両面からの指導を深めていきたい。また、大学や関係機関との共同研究は今後進めていきたい。	B
地域連携	○ボランティアの登録や養成を積極的にすすめ、障害や特別支援学校についてのよき理解者・支援者を育成する。 ○レインボーフェスタを中心とした地域行事、学校評議員会、学校HPや掲示板などを使って情報を発信し、学校の教育活動の理解者がより増え、地域との繋がりをさらに深める。	ボランティア養成講座を開催してボランティアや支援者の育成を進めることができた。 レインボーフェスタではたくさんの方々と交流することができた。今後も地域行事、学校評議員会、学校HPなどを通して情報を発信し、地域とのつながりをさらに深めていきたい。	B
人材育成・組織運営	○教職員一人ひとりが自覚と責任を持って組織運営に取り組む。 ○授業力のアップやメンターの機能の充実、人権教育の推進を図る。 ○教職員間のコミュニケーションを密にし、専門性の共有化、共感と信頼し合える人間関係づくりに努める。	教職員間のコミュニケーションを密にし、専門性の共有化や信頼し合える人間関係づくりに努めた。授業力のアップやメンターの機能の充実については、今後さらに力を入れていきたい。	B
学校関係者評価	全体的に保護者からの評価は前年度に比べて上がっているので、学校の取り組みが評価されている。教育課程や指導体制の編成については検討が必要である。教育と福祉が連携できるモデルケースとして、地域や外部へ向けてさらに発信してほしい。ヒヤリハットを繰り返しているものについては、校内だけで処理をするのではなく、医師や保護者などにも入ってもらい対応を考える必要がある。不審者対応については、あいさつや声掛けが大事なので、教職員が積極的に地域に出て、様々な話をしたり顔なじみになることが大切である。		
評価結果に対する学校の見解	様々な児童の実態に合わせた教育課程の編成については検討が必要で、教育課程検討委員会を中心に次年度検討を進めていく。教育と福祉の連携については特別支援教育コーディネーターや進路主任を中心に、周辺にある地域活動ホームや福祉機関と協力して地域や外部への発信を積極的に行っていく。ヒヤリハットについては担任、養護教諭、看護師が連携を取りながら防いでいくだけでなく、校内医療的ケア検討委員会で医師や保護者からの意見も聞き、再発防止に努めたい。不審者対応については、中村小学校との合同研修、地域との連携強化をさらに進めていく。		
学校経営中期取組目標振り返り	港南分教室の開級にもなっており本校の取り組みだけでなく分教室にかかわる取り組みや本校との連携についても位置づけ、評価をしていきたい。児童生徒の実態が多岐にわたり、教育課程の検討が必要である。教育課程検討委員会を中心に、全職員で取り組んでいきたい。また、センター的機能の取り組み、地域連携、人材育成については課題もあがっているので、次年度は重点的に取り組む必要がある。		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	b4		
豊かな心	b5		
健やかな体	b6		
センター的機能の取組	b7		
b1	b8		
b2	b9		
b3	b10		
人材育成・組織運営	b11		
学校関係者評価			
評価結果に対する学校の見解			
学校経営中期取組目標振り返り			

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c4		
豊かな心	c5		
健やかな体	c6		
センター的機能の取組	c7		
c1	c8		
c2	c9		
c3	c10		
人材育成・組織運営	c11		
学校関係者評価			
評価結果に対する学校の見解			
学校経営中期取組目標振り返り			